



JA兵庫みらい
営農経済部 あぐり創生課
TEL 0790-47-1282
FAX 0790-47-1674

2025. 11月号

園芸 【エンドウを作ろう】

エンドウは、ビタミンC・ビタミンA・ビタミンB1や食物繊維も多く、ミネラル分も豊富な緑黄色野菜です。冷涼な気候を好み、生育適温は15～20℃ですが、幼苗はマイナス4℃くらいまで耐えます。そのかわり暑さに弱く、25℃以上になると生育が鈍ります。連作を嫌うので、3～5年は同じ所で作るのは避けましょう。（連作障害）

【種まき】

直まきの場合、35～40cm間隔の播き穴をつけて、そこに種子を2、3粒ずつまき、2cm程度覆土します。発芽したら1カ所2株にしておきます。覆土が浅いと、根が浮き上がったり、種皮をかぶったまま発芽してくるので注意しましょう。

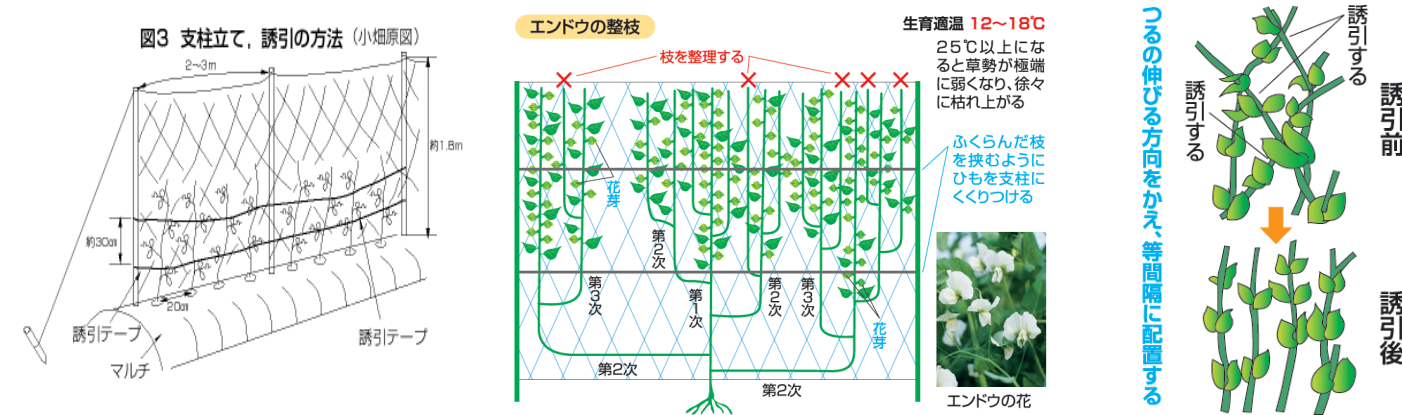
苗の場合には、ポットに2、3粒ずつ間隔をあけて種をまき、2cm程度覆土をします。芽が出たら2株に間引き、播種後20日までに定植しましょう。霜や寒さによる凍害が発生すると株元から枯れてしまうので、敷わら等の防寒対策をおこなってください。



【支柱立て・誘引・追肥】

発芽後10cm程度になると風で株元が傷ついたり折れたりするので仮支柱を立て安定させてください。本支柱は春につるが伸び始め、草丈が40～50cmに伸びた頃におこないます。

誘引はつるが落ちたり折れたりしないように、わら等で早めにおこなってください。誘引が遅れ重なり合うと実つきが悪くなります。



追肥はつぼみが見え始めの頃に1回目、開花始めの頃に2回目の追肥をします。（1㎡あたり30gの園芸化成）収穫適期は、開花から10日～20日後を目安にし、サヤエンドウでは豆の膨らみが外からわずかに見え始めた頃、スナップエンドウでは実が十分に膨らんだ頃と、品種によって適切な収穫のタイミングが異なるので注意しましょう。

【農作業事故に注意しましょう！】

日没が早まるため、無理のないスケジュールで作業しましょう。

夕暮れ時には夜光反射材を身につけるなど、周囲に気づかれやすくする工夫をしましょう。

一人で作業する場合は、家族に作業場所と帰宅時刻を伝え、携帯電話を持ち歩くようにしましょう。

水 稲 【除草剤の体系処理で畦畔管理の労力軽減】

今回は、除草剤の体系処理によって畦畔の草刈り作業の回数を減らす方法をご紹介します。

まず12月～3月上旬のなるべく気温の低い時期に「カソロン粒剤」を散布すると、5月上旬～中旬までの残効が期待でき、雑草の発生を遅らせる事ができます。その後、雑草が生えてきたタイミングで、「ザクサ液剤＋カーメックス顆粒水和剤」の混用散布をおこなう事で、45日～60日程度、雑草の発生を抑え、夏場の草刈り回数を減らすことができます。

【各除草剤の性質と特徴】

ザクサ液剤は、一年生雑草や多年生雑草、スギナ、ツククサなどの難防除雑草も素早く枯らすことができます。また根は残すタイプの除草剤なので、畦が崩れにくいのが特徴です。

カーメックス顆粒水和剤は、土壌処理型の除草剤で、雑草発生前に全面土壌散布をおこなうと雑草の発生を45日～60日程度抑制することができます。

カソロン粒剤は、一年生雑草や広葉雑草、スギナなどの難防除雑草にも高い効果があります。使用時期は雑草発生前で、土壌にできるだけ均一に散布しましょう。また、カソロン粒剤は温度によってガスを発生させて雑草の発生を抑えるため、散布後の気温が高ければ残効が短くなる事があります。そのような場合は、「ザクサ液剤＋カーメックス顆粒水和剤」の混用散布をおこなう前に、草刈りをおこなうか、ザクサ液剤単剤での散布をおこなうなど、夏場の暑い時期に「ザクサ液剤＋カーメックス顆粒水和剤」の残効が長く残るように工夫して使用しましょう。



カソロン粒剤



ザクサ液剤



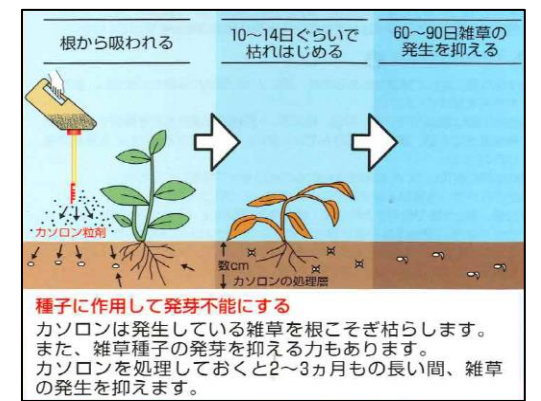
カーメックス顆粒水和剤

11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬	上中下 旬旬旬
カソロン 粒剤 4.5											
						カーメックス 顆粒水和剤					
						ザクサ 液剤					

【稲刈り後のカソロン粒剤散布によるヒレタゴボウ対策】

近年黄色い花が咲く「ヒレタゴボウ」が水田でよくみられるようになりました。中干し後に多く発生するため、田植え直後の除草剤だけで発生を抑制することは難しく、多くの種子を残すので一度発生すると年々増加してしまいますが、カソロン粒剤を水稲刈取跡に散布することで、水田内の雑草種子に作用して翌年の雑草密度を減らすことができます。

水田刈取跡処理のポイントとしては、年内に散布を行い、散布前の秋耕はなるべく避け、散布後は春先まで耕うんしないでください。◎詳しい使い方につきましては、最寄りの営農生活センターまでご相談ください。



問 い 合 わ せ 先

加西営農生活センター
TEL0790-47-1286

三木営農生活センター
TEL0794-82-6150

小野営農生活センター
TEL0794-63-6905